

9 課

5月29日

契約のしるし



安息日午後 5月22日

暗唱聖句

イスラエルの人々は安息日を守り、それを代々にわたって永遠の契約としなさい。(出エジプト記 31 : 16、新共同訳)

ゆえに、イスラエルの人々は安息日を覚え、永遠の契約として、代々安息日を守らなければならない。(出エジプト記 31 : 16、口語訳)

今週の聖句

創世記 2 : 2、3、出エジプト記 20 : 11、出エジプト記 16 章、ヘブライ 4 : 1~4、出エジプト記 31 : 12~17、申命記 5 : 14

今週のテーマ

第七日安息日は、釘のようなもので、毎週揺るぎない規則正しきで私たちを私たちがいるべき場所に引き戻してくれます。私たちはあまりに忙しく、消費と金儲けのためにあくせく働いています。そして安息日がやって来て、私たちがいるべきところ、すべての出発点に引き戻してくれます。なぜなら、すべてのものは神によってつくられたという事実こそが、私たちの出発点であるからです。

安息日は止むことのない規則正しきで、音もなく地平にまで突き進み、私たちの人生のあらゆる裂け目と割れ目にまで入り込み、それらの裂け目と割れ目までも、私たちをそこに置かれたお方、「初めに」天地を創造されたお方である神に属していることを私たちに思い起こさせます。創造の御業は、みわざ今も反駁できないすべてのキリスト者の信仰の基礎であり、第七日安息日は、反駁できない、ほんばく慎み深い断固たるしるしなのです。

私たちは今週、シナイの契約の文脈からこのしるしについて学びます。

今週のポイント

安息日の起源はどこにありますか。安息日がシナイ以前に存在した証拠は何ですか。安息日をこれほどふさわしい契約のしるしにしているものは何ですか。

私たちはたびたび「古いユダヤ人の安息日」という言葉を耳にしますが、聖書ははっきりと、ユダヤ民族が生まれるずっと以前に安息日が存在していたことを示しています。その起源は、創造週にさかのぼります。

問1 創世記2:2、3と出エジプト記20:11を読んでください。これらの聖句ははっきりと、少しの曖昧さもなく、どこに安息日の起源を置いていますか。

創世記2:2、3は、「第七の日」を安息日と呼んではいませんが（この呼び方は出16:26、29に初めて出てきます）、「第七日に休まれた」（創2:2、口語訳）との聖句は明らかにそれを示しています。「休まれた」というヘブライ語は、名詞形の「安息日」と関係しています。

「〔創2:2、3〕では『安息日』との言葉は用いられていないが、著者は間違いなく、神は安息日として第七日を祝福し、聖とされたことは明らかである」（G・F・ウォーターマン『ゾンダーヴァン図説聖書百科事典』第5巻183ページ、英文）。

明らかに、創世記2:2、3は、安息日はその起源を神とする、全人類に与えられた祝福の日として制定されたと教えています。

マルコ2:27を読んでください。ここでイエスは、安息日は「人」のためにあると言います。ここでいう「人」は、ユダヤ人だけでなく、全人類を意味します。

問2 神はなぜ七日目に休まれたのでしょうか。休む必要があったのでしょうか。その他の目的は何だと思えますか。

神学者カール・バルトは、創造後の神の休息は、「恵みの契約」の一部であると考えました。それは人類を「〔神の〕休息に神と共に入らせるため」でした（『教会教義』第3巻第1部98ページ、英文）。

神は愛のうちに、彼らを創造した次の日の休息と交わりに、その御形^{みかたち}につくられた主との親しい交わりに、人類を招かれました。この交わりは、永遠に続くのです。人類の墮落以来、この交わりは人類に対して週ごとに、救い主との最高の幸せとして与えられてきたのです。

だれかに、安息日を守ることは、あなたと主との関係にどんな利益を与えていますかと聞かれたら、どのように答えますか。

「モーセは彼らに言った。『これは主が仰せられたことである。明日は休息の日、主の聖なる安息日である。焼くものは焼き、煮るものは煮て、余った分は明日の朝まで蓄えておきなさい』」(出16:23)。

シナイ以前に荒野でイスラエルに与えられたマナの物語である16章をざっと読んでみましょう。この出来事を注意して見てみましょう。

- (1) 毎日決まった分のマナを集めることができたが、6日目には二倍を集めることができた。
- (2) 安息日にはマナは降らなかった。
- (3) 安息日以外では翌日まで残しておくことはできなかったが、安息日のために6日目に余分に集めておいたマナは腐らなかった。

問3 シナイで律法が与えられる前のこの物語は、安息日の神聖さをどのように示していますか (出16:23~28)。

「事実、第七日目を安息日と等しいと見なすこと、主がイスラエル人に安息日を与えたという記述、そして神の命令によって民が安息日に休んだとの記録はすべて、紛れもなく、〔創造における〕太古の安息日の制定を指し示している」(G・F・ウォーターマン『ゾンダーヴァン図説聖書百科事典』第5巻184ページ、英文)。

問4 出エジプト記16章には、さらに多くの最初の安息日に関する記述が見られます。これらの記述は、私たちに何を教えているのでしょうか。

- (1) 安息日に備える日はどの日ですか。
- (2) 安息日は週のどの日ですか。
- (3) 安息日の起源はどこにありますか。
- (4) 安息日はどんな日であるべきですか。
- (5) 安息日は断食すべき日ですか。
- (6) 安息日は神への忠誠を試す日ですか。

あなたの安息日の理解は、出エジプト記16章で教えられているものと同じですか。

「イスラエルの人々は安息日を守り、それを代々にわたって永遠の契約としなさい。これは、永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである。主は六日の間に天地を創造し、七日目に御業をやめて憩われたからである」(出31:16、17)。

安息日は、聖書の中で4回、「しるし」として示されています(出31:13、17、エゼ20:12、20)。「しるし」は、元々備わっている性質で類型化したり、代表したり、ときに連想させるという「象徴」とは異なります。(例えば、拳がしばしば腕力や力の象徴であるように)象徴するものとされるものは、互いに似た性質を分かち合います。聖書における「しるし」としての安息日は、外部に向かっての記章、あるいは目標、または、あるはっきりしたメッセージを伝えるという意図を持った規定といえます。このしるしそのものには、特に契約との関連はありません。安息日は、ただ神がそう言われたがゆえに「代々にわたってわたしとあなたたちとの間のしるし」となるのでした(出31:13)。

問5 主はなぜ、安息日を契約のしるしとされたのでしょうか。私たちは行いではなく、恵みによって救われたというこの契約の非常に重要な面を考えると、何が安息日を神との救いの関係の、これほど良い象徴にしているのでしょうか(創2:3、ヘブ4:1~4参照)。

安息日が恵みの契約のしるしとしてこれほど魅力的であるのは、何世紀もの間、ユダヤ人が安息日をメシアによる贖い^{あがな}のしるしと考えて来たからです。彼らは安息日を通して、メシアによる贖い^{あがな}を先取りしていたのです。私たちは、贖い^{あがな}は恵みによってのみ成ると理解し、契約は恵みの契約であると理解しています。安息日、贖い^{あがな}、そして契約の間の関連は、明白です(申5:13~15)。このように、一般的な考えとは対照的に、安息日は神の救いの恵みのしるしであり、行いによる救いのしるしではないのです。

あなたは、安息日に「休む」ことがどのような意味であると理解していますか。あなたは安息日にどのように休んでいますか。さらに「しるし」としての安息日は、あなたの過ごし方にどんな違いを生んでいますか。

「あなたたちは、わたしの安息日を守らねばならない。それは、代々にわたってわたしとあなたたちとの間のしるしであり、わたしがあなたたちを聖別する主であることを知るためのものである」(出31:13)。

安息日についての記述として、出エジプト記31:12～17はその豊かさにおいて他に例を見ません。続いて、聖所の建設とそこで行われる儀式の制定に関する主の指示が書かれています(出25:1～31:11)。

神とその民との間の、目に見える、外面的な、そして**永遠の「しるし」**としての安息日の概念が初めてここに表されています。この聖句そのものに含まれる魅力的なこの概念は、私たちの学びにふさわしいものです。ここに安息日の新しい二つの概念が一つに結びつけられています。

- (1) 「知識のしるし」としての安息日
- (2) 「聖化のしるし」としての安息日

このしるしの知識に関する面を考えてみましょう。ヘブライ人の知識に関する理解は、知的、關係的、感情的面を含みます。「知ること」とは、単にある事実を知ること以上のことを意味しました。特に人との關係については、知る相手と意味のある關係を持つことをも含みました。ですから、「主を知ること」とは、主との正しい關係にあること、すなわち主に「仕える」こと(代上28:9)、主を「畏れる」こと(イザ11:2)、主を「信じる」こと(同43:10)、主を「依り頼み」、主を「尋ね求める」こと(詩9:11、口語訳10節)、そして主の名を「呼ぶ」こと(エレ10:25)を意味しました。

問6 上の段落の聖句をそれぞれ見てください。主を「知ること」の意味についての理解をどのように深めてくれますか。

さらに、安息日は聖化のしるしとしての意味を持っています。それは、主がその民を「聖」とすることによって(申7:6)、「聖化」されることを意味します(レビ20:8比較)。したがって、安息日は、聖なるものとするお方としての神の知識を与えるしるしなのです。

「聖なるものとされる」安息日と聖化の過程について考えてください。聖化の過程を経験し続けるために、安息日はどんな役割を担っているのでしょうか。主は、私たちの聖化のために、私たちの安息日遵守の経験をどのようにお用いになるのでしょうか。

「安息日を覚えて、これを聖とせよ」(出20:8、口語訳)。

安息日は、過去においても現在もなお、人が「覚える」べきしるしです。「覚える」という言葉はさまざまな意味を持っています。まず、「覚えること」は、過去のあるものを思い出すことを意味します。この意味において、安息日は私たちに創造の御業を指し示します。そのクライマックスは、週ごとの休息と神との特別な交わりの日としての安息日の制定でした。

覚えよとの命令は、現在でも意味を持ちます。私たちは安息日を「覚える」だけでなく(出20:8)、それを「守り」、「聖別する」ことが求められています(申5:12)。このように、安息日は現在の私たちにも重要な意味を持っているのです。

最後に、安息日は私たちの目を将来へと向けます。安息日を覚え、守る人は、安息日の主と共にある約束に満ちた豊かな未来を持っています。その人は契約関係に留まります。なぜなら、それは主との関係に留まることだからです。私たちが契約は神と人類の間関係であることを理解するとき、安息日はこの関係を大いに力づけ、〔キリスト者にとって〕明確なしるしとなるのです。

実に、創造と創造主を覚えるとき、神の民はまた神の恵み深い救いの御業をも覚えるのです(申5:14を見ると、前後の文脈において、それは神のうちに見いだされる究極の救いの象徴としての、エジプトからの解放を意味します)。創造と再創造は一つです。先のが後のものも可能にするのです。安息日は、神が世界の創造者であり、私たちの救いの創造者であることを語るしるしなのです。

「主の安息日を聖く守ることによって、私たちは主の民であることを示すのである。主のみ言葉は、安息日は戒めを守る民を見分けるためのしるしとなる」と宣言している……。神の戒めを守る者たちは、天においてサタンと神の間に始まった大争闘においても、主と共にいる者となるであろう」(『セレクトッド・メッセージ』第2巻160ページ、英文)。

主の僕^{しもべ}の視点から、上の文章を読んでください。おそらく、他のどんな戒めにもまさって、安息日が主の「戒めを守る民」を見分けるしるしとなるのは、なぜでしょうか。

参考資料として、『人類のあけぼの』第26章「紅海からシナイへ」を読みましよう。

十戒は包括的かつ根本的に、神と人間、人間と人間の間を定義しています。十戒の中心は安息日の戒めですが、それは特別な方法で安息日の主を定義し、その権威と所有権の範囲を指し示します。つまり、(1) 神のアイデンティティーは創造主なるヤハウェ（主）であり（出20：11、31：17）、それゆえに唯一無二のお方であること。(2) 主の所有権と権威の範囲は、「天と地と海とそこにあるすべてのもの」におよぶこと（出20：11、31：17比較）です。これらの二つの点から、安息日の戒めが、典型的な古代中近東の国際的文書の証印〔条項〕の役割を果たしていると言えます。証印〔条項〕は通常、条約文書の中心に置かれ、通常、(1)（異教の）神のアイデンティティーと(2)（地理的範囲に限られる）所有権と権威の範囲を含みました。

「聖霊の聖化は、神の印を持っている者たちと、〔安息日以外の〕他の見せかけの日を守っている者たちとの違いを明確にする」

「試験の時が来ると、何が獣の印であるかがはっきり示される。それは日曜日の遵守である……」

「神は、主の安息日として第七日をお定めになった〔出31：13、17、16引用〕
「こうして忠実な者と不忠実な者との間に一線が引かれる。その額に神の印が押されることを望む者たちは、第4条の安息日を守らねばならない」（『SDA聖書注解』第7巻980、981ページ、英文）。

話し合いのための質問

- ① レビ記 19：30 を読んでください。聖所と安息日の結びつきに注目してください。今まで学んだように、安息日がしるしであることを考えると、なぜその結びつきはいっそう大きな意味を持つのでしょうか。
- ② 安息日遵守はあなたにとって、主と共に歩む助けになっていますか。

まとめ

安息日は、救いの計画が完成するときを指し示す契約のしるしです。それは過去の創造を指し示すと同時に、恵みの契約のしるしとして、神がすべてのものを新しくされる最終の再創造を私たちに指し示します。

いやされたタトゥー・アーティスト

セブンスデー・アドベンチストの医師であるヘルナンドが、患者の治療をしていた時のことです。ある患者が診療室を訪れ、彼を驚かせました。

それは、頭髪を剃り上げ、鮮やかな入れ墨をした男性でした。入れ墨は、黒と青の蜘蛛の巣状のデザインで、頭、腕、手まで覆っています。男性は診療室に入った途端に泣き始めました。体格のいい男性が、子どものように泣いています。ヘルナンドはカルテを見ました。そこには、「HIV陽性」と書かれていました。

「HIVを治してください」。入れ墨の入った頬を涙が流れました。

「お仕事は何ですか？」とヘルナンドは尋ねました。

「タトゥー・アーティストです。私にとって、体はキャンパスと同じなのです」

「なぜHIVにかかったのですか？」

男性は、仕事を通してHIVにかかった、と言いました。

「私は死にたくありません」

「あなたをいやすことのできる方がおられます」とヘルナンドは言いました。「神はあなたを助けることができます」

男性は無神論者でしたが、喜んで考え直すと言いました。ヘルナンドは、「祈りましょうか」と提案しました。「あなたは、イエスをあなたの救い主として受け入れますか」

男性はうなずき、ヘルナンドはイエスの名によって祈りました。男性は、祈りが終わると、床にひれ伏しました。ヘルナンドは、男性にもう一度HIV検査を受けるように言いました。

次の週、男性は、満面の笑みと共に戻ってきました。「私は、神とあなたに感謝をささげたい。神が私をいやしてくださいました」。もう1度検査をした結果、陰性だったのです。彼は、HIVの陰性は、神からの奇跡だと信じました。

数か月後、ヘルナンドがモールで買い物をしていると、「お医者さん、お医者さん！」と呼ぶ声が聞こえました。タトゥー・アーティストの男性がヘルナンドに走り寄り、ぎゅっとハグをしました。彼は、神が人生の中で奇跡を起こしたと、主を讃美しました。



ヘルナンドが働くのは、コロンビアにあるアドベンチスト病院です。この男性は、ヘルナンドを通してイエスに導かれた、数十人の中の1人です。